

42

## 本邦初の頭部単純レントゲン撮影を行った 済生学舎教師の丸茂文良医学士

志村 俊郎<sup>1)</sup>，唐沢 信安<sup>2)</sup>，殿崎 正明<sup>3)</sup>，岩崎 一<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>日本医科大学教育推進室，<sup>2)</sup>唐沢医院，<sup>3)</sup>日本医科大学図書館，<sup>4)</sup>岩崎医院

済生学舎講師の丸茂文良医学士は、我が国で最初に頭部単純レントゲン撮影を行いレントゲン撮影の黎明期を築き、その後の脳外科手術に多大な貢献をしたので、脳外科手術の歴史を踏まえ報告する。

済生学舎は、明治8年12月24日東京府知事に私学開業願を提出してから明治9年4月7日日本郷元町1丁目に創立され、それ以後明治36年に廃校に至るまで、多くの熱意ある教師により支えられてきた。これらの教師のうち丸茂文良に関しては、加藤富三博士の著書と唐沢信安の報告が以前見られている。

丸茂文良は、文久2年(1862)山梨県に生まれる。明治12年東京大学医科予備門に入り、夜間東京物理学校に通い、物理学を学ぶ。明治19年医学部2年の時、済生学舎で物理学を講義する。明治22年東京大学医科大学を卒業し、医学士となる。丸茂は、当時東京大学外科教授であったスクリバ(Julius Karl Scriba)の助手として外科医局に入り、済生学舎では物理学(前期学生)と外科学(後期学生)に講義を行っていた。

1896年11月8日ドイツ・ヴェルツブルグ大学物理学教室でレントゲン教授が、X線を発見し、12月28日に「放射線の一新種について」と題してヴェルツブルグ物理学・医学協会会報9号に発表してから、わずか7ヶ月後の1897年5月31日に丸茂文良は、我が国医学界初のX線実験の臨床講義を行った。スクリバの勧めで丸茂は、東京医学専門学校済生学舎の講堂に学生を集め、X線発生装置を作り、自分の懐中時計の鎖とタバコ、および式銭銅貨をX線写真に撮影し、学生達にX線の特性について講義した。その直前丸茂は、結核菌・コレラ菌・チフス菌等種々の細菌のX線による影響も実験している。更に明治29年5月31日の済生学舎における丸茂の臨床講義は、当時の済生学舎医事新報42号明治29年6月15日P508(1896)に「レントゲン氏の所謂X光線?のデモンストラチオン」と題し講義録としてその速記録が掲載された。丸茂文良医学士の講義の詳細は、済生学舎医事新報において以下の如く記載されている。頭部レントゲン写真においては、「頭骨と硝子の透過度を比較する目的で顛顛骨(側頭骨)と硝子を並べて写した」との丸茂の報告が最初である。その後1898年より各方面から日本最初のX線の臨床応用論文が数編発表されたが、丸茂文良医学士は、日本における最初の放射線医学者であることは、放射線医学史でも広く認められている。

これらの丸茂の業績により、脳外科の手術は、1892年スクリバの頭部陥没骨折手術や1905年の当時の福岡医科大学(現九州大学)の三宅速教授の脳腫瘍摘出術の成功へと発展していった。

### まとめ

済生学舎教師である丸茂文良医学士のX線写真实験の臨床講義の如く、官立である東京大学医科大学におけるよりも私立医学校の済生学舎において、放射線医学の嚆矢となる研究が活発であったことは興味深い。